

機械器具 32 医療用吸引器
一般医療機器機器 胸腔排液用装置 10817000

NARニードルキット2

再使用禁止

禁忌・禁止
再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

ケース (長 140 x 15 x 20mm、重さ 15 g)



ニードル (14ga)



カテーテル



原理

胸腔にカテーテルを穿刺することにより、胸腔内の空気を脱気する。

【使用目的又は効果】

救急医療において、肺損傷に伴う緊張性気胸に緊急対応する。胸腔内の空気を脱気することにより、緊張性気胸を防止する。

【使用方法】

- 側方からあるいは前方からか、穿刺をする部位を選択する。
- 穿刺する場所を消毒液で洗浄する
- ひねりながらケースからニードルキャップを外す。
(末端のハブが露出する。)
- ケースから、ニードルキット 2 を取り出す。
(ハブをつかみ、引き抜く。)
- ニードルキット 2 を、選択した肋骨 (挿入予定場所の高さより下) に向け皮膚から挿入する。針先を肋骨の外側に当て、位置を確認する。ニードルキット 2 を肋骨の上方に向け、胸腔内に挿入し、胸腔へ貫通させる。(ニードルキット 2 を標的肋骨の外側から約 3cm 進める。) ニードル先端を鎖骨の中央に向ける。(この時点で緊張性から解放されることがある。)
- ニードルをガイドにしてカテーテルだけを鎖骨の中央に向け、進める。ニードルはそれ以上入らないようにする。

- カテーテルが完全に挿入されたらニードルを抜く。(この時点で緊張性から解放されることがある。)
- カテーテルを固定する。(施設のプロトコルに従う。)
- 処置後の呼吸困難の再発について、傷病者をモニターし、合併症がないか継続的に評価する。
 - ・血行動態不安定 ・呼吸困難 ・片側胸部膨張
 - ・酸素飽和度の低下 ・出血 ・カテーテル閉塞 ・血腫

【使用上の注意】

- ・ 前方からアプローチする場合は、鎖骨中心線より線の外側で、第 2 肋間腔に垂直に、前胸壁を貫通するように留置する。この解剖学的配置により、不注意による心臓への損傷を避け、肺、血管をも避けることができる。
- ・ 左側前腋窩線に留置する場合は、胸腔を貫通するのに必要な深さまでしかニードルを挿入しないよう注意する。
- ・ ニードルキット 2 は、緊張性気胸の処置に関するトレーニングを受けた者のみが使用すること。
- ・ 不適切な使用は、傷病者を傷つける可能性がある。医師の監督のもとでのみ使用すること。
- ・ 胸部貫通損傷がなく、緊張性気胸の診断が確定していない傷病者の胸壁から ニードルキット を挿入すると、不注意で下層の肺を穿刺し、気胸を生じるおそれがある。
- ・ 本キットの使用により、汚染された体液に触れる可能性がある。
- ・ 包装が開封または破損している場合は、キットを使用しないこと。
- ・ 再使用しないこと。
- ・ 医療プロトコルに従い、ニードルキット 2 が機能していることを確認するため、傷病者を継続的に監視する。

【保管方法及び有効期間等】

- ・直射日光及び高温多湿を避け室温にて保管

【主要文献及び請求先】

請求先: アコードインターナショナル株式会社

【製造販売業者及び製造業者の氏名または名称等】

製造販売業者:アコードインターナショナル株式会社
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-14-5 3F
TEL: 03-5810-1735 FAX: 03-5810-1736
製造業者:ノースアメリカンレスキュー社
North American Rescue, LLC
(アメリカ・サウスカロライナ州)